

「砥部ブランドマーク」制作委員会

第 6 回 報告書

日 時： 平成 28 年 12 月 20 日(火)19 時～21 時

場 所： 砥部町役場 2階 大会議室

内 容： キャッチコピー提案、ブランドマーク最終審査

参加者： 制作委員 24 名うち 17 名参加(内:砥部町職員 3 名)、
ファシリテータ2名、アシスタント 1 名、見学者4名

次 第： 1. 開会 (司会進行:総務課 越智)

2. キャッチコピー、ブランドマークについて(ファシリテータ解説)

3. ブランドマーク最終審査

4. キャッチコピー審査

5. 閉会

■はじめに (進行:ファシリテータ 山内敏功氏)

今日はまず大野さんからコピーの説明とコピーの提案があります。その後、ロゴについて今までの経緯をスライドで見えていただいてから、各テーブルに配布している最終案について提案します。前回の意見をもとにロゴタイプを6案作成してきています。これをまた皆さんで検討してもらって、最終的に決定できればと思います。よろしくお願いします。

■キャッチコピーについて (コピーライター 大野千佳)

1. ワークショップの振り返りとコピー案の説明

(以下概要)

各テーブルに6つのコピー案を配布しています。これからスライドで説明しますので参考にしながら聞いてください。コピーを提案する前に、まずこれまでのワークショップで皆さんからどんなキーワードが出てきたかを振り返ります。ワークショップでいろんな「いいところ」「悪いところ」をあげた上で、A班、B班、C班それぞれにキーワードをあげてくれました。(前ページ図1参照)

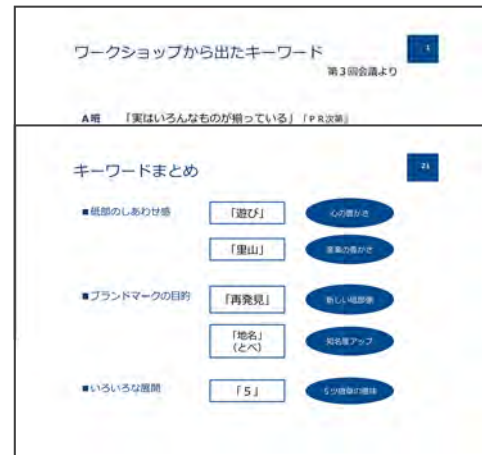
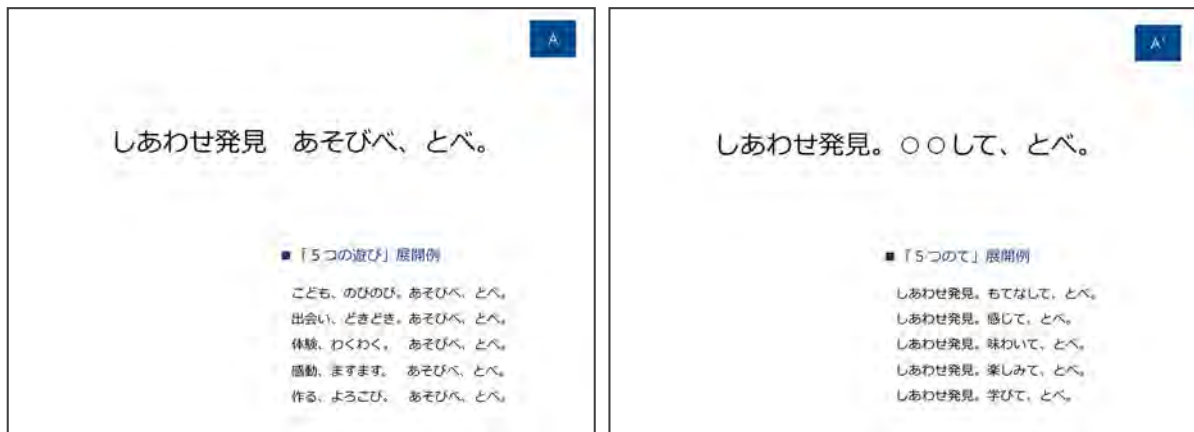


図 2

ここにあげられた「実はいろんなものが揃っている」「しあわせ感」「知名度アップ」「広田と砥部の融合」「埋もれてしまっているものを見直し」といった言葉から、砥部のシンボルコピーにふさわしいテーマとして浮かんできたのが「遊び」「里山」「再発見」「地名(とべ)」「5」という5つのキーワードです。(図2参照)

この5つのキーワードをもとに以下6つのコピー案を提案します。



B

小さなタカラヤマ。砥部(ロコ)

■「宝」展開例

- 砥部の宝、 子どもたち。
- 砥部の宝、 砥部焼。
- 砥部の宝、 とべ動物園。
- 砥部の宝、 高原野菜。
- 砥部の宝、 仙遊深谷。
- 砥部の宝、 七折小梅、 etc.

C

山のべ、川のべ、里のべ 砥部(ロコ)

■応用例（単独で使用）

- 山のべ、砥部。
- 川のべ、砥部。
- 里のべ、砥部。

D

花ひらくまち。砥部(ロコ)

■「5つの遊び」展開例

- 観い、 花ひらくまち。
- 出会い、 花ひらくまち。
- 学び、 花ひらくまち。
- 感動、 花ひらくまち。
- 技、 花ひらくまち。

E

花咲むまち。砥部(ロコ)

■「5つ唐草」展開例

- 人、 花咲むまち。
- 自然、 花咲むまち。
- 実り、 花咲むまち。
- 文化、 花咲むまち。
- 技、 花咲むまち。

【A】

しあわせ発見 あそびべ、とべ。

キーワード1の「遊び」より。「あそびべ」は、「遊び」+「部」=「遊部(あそびべ)」とした造語。リズムよく韻を踏むことで、地名「とべ」を印象づける狙いがあります。ワークショップの中で出てきた「5つの遊び」にも展開できます。

サブの「しあわせ発見」は、砥部のキーワード「しあわせ感」を「遊び」のなかに発見してほしいという外に向けてのメッセージと、すでに実感している「しあわせ感」だけでなく、新しいしあわせを「遊び」のなかに見つけていこうという、砥部が目指す方向性を示しています。

【A'】

しあわせ発見。〇〇して、とべ。

A案の「しあわせ発見」をメインにしたアレンジ案。キーワードの「5」より、はじめから5つのサブコピーを用意。砥部のいろんな魅力、人、もの、ことを5つのカテゴリーに分類して「5つので」で展開します。「て」は、語り手、使い手、作り手などの「手」=〇〇する人の意もあります。

【B】

小さなタカラやま。

キーワード3の「再発見」より。砥部は小さい町だけど「いろんなものが揃っている」「いろんな魅力が埋もれている」「(特に山のあたりに)宝がいっぱい埋まっていそう」という連想から、宝島にかけて「小さなタカラやま」と表現。旧砥部町のイメージが強く「山」のイメージがあまりない砥部を「町全体が宝の山」と発信することで、文化・産業の豊かさと町の奥行きを伝えます。

【C】

山のべ、川のべ、里のべ

キーワード2の「里山」より。ひらがなの「べ」には、「辺(…のそば)」と「部(…のひとびと)」の2つの意味をかけています。里山のイメージを新たに創出することで、砥部の文化・産業の豊かさ、奥行きを内外に向けて再発信します。

山のべ …… 自然豊かな山、砥部焼の原料「陶石の山」、地名のルーツ「砥石の山」
川のべ …… 町を貫く砥部川、砥部焼を支えた川、清流とほたる、仙波溪谷の川遊び
里のべ …… やきものの里、アートの里、文化の里、いろんなレジャー施設がある里

【D】

花ひらくまち。

シンボルマークからの展開案。坂村真民さんの「念ずれば花ひらく」にかけて。砥部だから意味を増すフレーズ。梅のつぼみがほころぶような現在進行形の動きのあるマークにも呼応し、広田と砥部が力を合わせてこれからますます開花していくという再出発のイメージを表現しています。

【E】

花咲むまち

シンボルマークからの展開案その2。「花ひらく」を「花咲む(はなえむ)」と表現。「咲」の字には文字どおり「咲く」という意のほか、ひとがほほえんでいるようすを花にたとえていう「わらう・えみ」の意もあります。砥部のしあわせ感、文化・産業の豊かさを「ほほえみ」にたとえて。

(2. 意見交換、投票はブランドマークとあわせて行う)



■ブランドマーク最終案について (山内)

1. これまでの経緯と最終案の説明

(以下概要)

今までの第1回のプレゼンテーションから簡単に振り返ります(※詳細は前回、前々回報告書を参照)。第1回の際に、どこにもないシンボルとして「砥部唐草」と町の花「梅」で作ったマークを提案しました。この2つをシンボルにすることについては譲れないので、最後まで踏襲しています。このほか唐草が藍色になるように背景を付けて梅を白抜きにしたもの、梅の形を変えて横から見たシルエットにしたものなどいくつかのパターンを提案しました。1つはフォント(文字)に唐草と梅を入れてシンボル化したものも提案しました。

この中から3つの案にしぼり込んで、第2回のプレゼンテーションで修正案を提案しました。3時間にわたって皆さんからいろんな意見を出していただいた中で、シンボルマークは「梅花と5ツ唐草」のA案に決定しました。フォントについては、文字の中の梅の花をやきものの形にしてほしいなどいくつかの要望が出たので、それを反映して修正してきたのがこの最終案です。

シンボルマークも少し手直ししてきています。センターの雄しべを取り、唐草を梅の花びらのセンターに持ってきています。そして花びらを縁取る白いラインを少し太らせて動きを出しています。

ロゴタイプは6案あります。すべて文字の中の唐草と梅の花は取りました。A案とC案の文字の一部にシルエットでやきものを入れています。D案とE案は、呉須を筆で落とした感じと梅の花を丸で抽象的に表現したものです。F案はやきもののシルエットの中に「TOBE」と入れています。





シンボルマークとロゴタイプを組み合わせた例です。前回「雲南のような展開がいい」という意見も出たので、四角く組んだパターンも作ってみました。基本はマークとロゴタイプを上下で使う案がよいと思います。シンボルマークが強調されます。



そのカラー展開例として「紺青」「空色」「緑」「萌黄」「赤」「紅梅」「橙」「藤紫」「茶」「黄土」の10色を作っています。基本カラーは砥部焼をイメージする「紺青」として、野菜には「緑」、梅には「紅梅」というように目的に合わせて使用します。役所内の各部署のサインカラーにも展開できます。グラデーション展開もできます。具体的な使用例として、名刺やバナー、包装紙などにも、基本色だけのタイプとカラフルなタイプとの両パターンが展開できます。



〈オモテ〉

〈ウラ〉



◀ 名刺交換の際、
まず砥部を印象づける名刺



◀ 砥部町の場所の認知を優先

(2. 意見交換、投票はコピーとあわせて行う)

■ブランドマーク最終審査とシンボルコピー審査

1. 投票(1回目)

全員で1回目の投票を行う。ブランドマークはロゴタイプ(文字のデザイン)を審査。6案のうちD・E・Fは変形のため、基本の3タイプ(A・B・C)で投票を行う。コピーもまず第一印象で投票後、意見交換する。

■ロゴタイプ

〈投票結果〉（全 18 票）

A	「砥」と「部」の口の部分が須恵器のシルエット	0 票
B	やきものを使わないフォントデザイン	2 票
C	「部」の口の部分が湯呑みのシルエット	16 票



〈意見交換〉



- ・A は弥生式のイメージが強い。
- ・B と C では、C のほうが遊んでいる感じがよい。
- ・C は砥部の器をイメージしているロゴですごく印象づけられる。わかりやすい書体。
- ・C の高台の部分がポイントになってよい。
- ・C は「砥」が「研」に見えるのが気になる。（ハネの部分）
- ・B を選んだが C も捨てがたい。「部」は C のほうがバランスがよい。

〈結論〉

B の 2 名も C で異議なしとのことで、多数決で C に決定する。→ブランドマーク決定

■シンボルコピー

〈投票結果〉（全 18 票）

A	しあわせ発見。あそびべ、とべ。	7 票
A'	しあわせ発見。〇〇して、とべ。	1 票
B	小さなタカラやま。	2 票
C	山のべ、川のべ、里のべ	4 票
D	花ひらくまち。	3 票
E	花咲むまち。	0 票

〈意見交換〉

【A】しあわせ発見。あそびべ、とべ。について

- ・短くてよい。
- ・「あそびべ、とべ」という言葉が他になくてよい。(逆に他の言葉は普通すぎる)
- ・少し説明があるかもしれないが使いやすいそう。
- ・遊びをテーマにすることで砥部に遊びの空間を作っていける。コピーからまちづくりを進める。
- ・「遊びにおいでや、砥部へ」というイメージで、理解しやすいキャッチ。
- ・直感的に「遊び」が響いた。
- ・地域でも何でも遊び心がないと面白くない。遊び心を持っていきたい。
- ・「あそびべ、とべ」と韻を踏んでいて、いちばん町名をアピールできる。
- ・「しあわせ」という言葉をキャッチフレーズにもってくるのはあまり好きではない。
- ・「しあわせ発見」はピンと来ない。
- ・「しあわせ発見」は取ってもいいのかなと思う。
- ・「あそびべ、とべ」だけでも十分アピールできるし、使いやすい。
- ・ロゴマークがなくて言葉だけで見たときにいちばん印象に残るのが「あそびべ、とべ」だった。
- ・砥部ってどんなところかなといちばん興味を持てるシンボルかなと思う。
- ・「しあわせ発見」は子ども向け？ 大人よりは子どもに合わせる場面ではいいと思う。



【A'】しあわせ発見。〇〇して、とべ。について

- ・わかりやすさと使いやすさ。いろいろな用途でどんな場面でも使える。

【B】小さなタカラやま。について

- ・砥部焼にしても動物園にしても、砥部を今支えているものが山である。
- ・「タカラやま」と付いていることで、どこに行けば宝があるかなと探検心をくすぐられる。
- ・どうせなら「大きなタカラやま」がよいのでは。

- ・興味が引かれると思ったが、よく見ると「あそびべ」もいかなと悩んでいる。

【C】山のべ、川のべ、里のべ について

- ・長い。
- ・次点だがCもよい。山と里が入っていて、砥部と広田の融和という考えに共感。
- ・川がどこまで売り出せるか。水車も今は使っていない。使っていない砥部川をどこまで押せるか疑問。
- ・確かに長いという印象はある。川はのけてもいいかなと思う。
- ・「山のべ、里のべ、とべ」でもよいのでは。
- ・田舎らしさをあえてアピールできる言葉かなと思う。
- ・耳にしたたり、口にしたときに「山のべ、川のべ、里のべ、とべ」とつながっていくように思う。
- ・パッと見たときにいいと思ったが、少し長すぎるかなという気はする。
- ・「山・川・里のべ」でもよいのでは。

【D】花ひらくまち。【E】花咲むまち。について

- ・ロゴマークが花ということもあって、砥部焼の長い歴史の中でいろんな苦労があってやっと花ひらいた、という意味でいちばんイメージが合うと思う。
- ・坂村真民さんの「念ずれば花ひらく」がすぐに連想されて、普通だけど砥部でしか使えない言葉。
- ・子どもたちにも地域の人として教育されているのでよいと思う。
- ・将来への希望がいちばん感じられる。
- ・「花」というイメージが砥部にない。Eも同じ。

〈その他、自由意見〉

- ・「山のべ、里のべ。あそびべ、とべ」はどうか。
- ・それなら「花ひらく。あそびべ、とべ」でもよいのでは。
- ・「あそびべ、とべ」をシンボルコピーにして、他をキャッチフレーズとして扱っては。
- ・「タカラやま」を漢字にしてはどうか。
- ・焼酎の「宝山(ホウザン)」の印象が強い。ルビをふればよいかも。

2. コピー投票(2回目)

以上の意見を総合して、A案は「しあわせ発見」はトル、「あそびべ、とべ」とする、B案は「大きなタカラやま」あるいは「宝山(たからやま)」とする、C案は「山のべ、里のべ」あるいは「山のべ、里のべ とべ」とする、という改良案を含めて、2度目の投票を行う(挙手)。

〈投票結果〉(全18票)

A	あそびべ、とべ。	10 票
B	大きなタカラやま。	0 票
C	山のべ、里のべ	6 票
D	花ひらくまち。	2

〈意見交換〉

—多数決で「あそびべ、とべ」でよいか。意見があれば、まだ逆転も可能。

- ・Aに挙げたが、Cを「山のべ、里のべ とべ」とすることで山と里に遊びが出てくるので、Cに。
- ・同じくCに賛同する。(→Aが8票、Cが8票に)
- ・Cに挙げたが、このままだと外の人から見たら本当に田舎田舎となる。外に向けてと考えたときDの「花ひらく」は分かる人には分かるので、Dに。(→Cが7票、Dが3票に)
- ・「山のべ、里のべ」「大きなタカラやま」「花ひらく」はいずれも説明だと思う。たとえば「遊びってどこにあるん？」と聞かれて「山にもあるよ、里にもあるよ、川にもあるよ」と口で説明できること。オリジナリティという点でも「あそびべ、とべ」がよいのでは。
- ・「あそびべ、とべ」からは会話も生まれそう。「遊び」は人によってそれぞれ感じ方が違う。いろんなコミュニケーションに広がりを感じる。
- ・「花ひらく」も真民さんにつながるが、外の人が真民さんをどれだけ知っているかどうかによる。相田みつをほどは有名ではないかもしれない。
- ・遊びというと二番町、三番町をイメージする。
- ・「あそび」のイメージを狭くしない方がよい。砥部には遊ぶ場所がいっぱいある。詩歌に遊ぶ、砥部焼で遊ぶ。動物園もある、こどもの城もある、運動公園もある。そこから「あそび」が出ている。



(※以下ファシリテータとのQA)

Q. ブランドマークとの相性はどうか。

A. (山内)タイプフェイスが漢字とローマ字なので、最後に「とべ」が来たほうがよいと思う。すぐに「とべ」と読むと分かる。

Q. ブランドマークとの相性として考えると、「山のべ」の陶石の山、砥石の山、「里のべ」のアートの里、やきものの里というのが、シンボルマークの唐草と呼応してくる。そう考えると「山のべ、里のべ、とべ」と来てもいいかと思う。「とべ」という相性と、謂われの相性、両方ともよい。

A. (山内)「5つの遊び」もシンボルマークの5ツ唐草と呼応している。「5」というのもひとつのキーワードに

なっている。



Q. 「あそび」が漢字でないのはなぜか。

A. (大野)最初は「遊部、砥部」と漢字の展開も考えたが、遊という文字自体に遊興感が漂ってしまう。「遊び部」とすると遊んでばかりいる部活のよう。「遊びべ、とべ」とすると「あそびべ」の音が印象に残らない。そもそも「とべ」と読まずことが目的で韻を踏んでいるのでひらがなにした。

A. (山内)ロゴが漢字なので、コピーはひらがながいいと思う。あまり細かいこだわりよりも全体を見たほうがよい。

3. コピー投票(最終)

以上の意見を総合して、最終投票(挙手)。

〈投票結果〉(全 18 票)

A	あそびべ、とべ。	13 票
C	山のべ、里のべ とべ。	3 票
D	花ひらくまち。	2 票

〈結論〉

「あそびべ、とべ。」をシンボルコピーとして、「山のべ、里のべ」の里山のイメージや、「花ひらくまち」のイメージは今後キャッチコピーなどで展開を考えていく。 →シンボルコピー決定

■まとめ 今後の予定について (総務課:越智)



お願いします。お疲れさまでした。

それではブランドマーク、コピーともに決定したということで本日はありがとうございました。今後の予定ですが、まず12月28日に町長に報告し、1月13日に議会へ報告したいと思っています。その後、この「砥部ブランドマーク」制作委員会の報告会として、1月20日にマスコミ発表をしたいと思っています。発表の場にはできるだけ多くの方に参加していただきたいと思います。時間等、決まりましたら後日お知らせいたしますのでよろしく

(以上)